

人間科学科 卒業論文評価基準

- ・ 評価項目ごとに4段階評価をおこなう。不可の項目がある場合、卒業論文として不合格となり、単位が認定されない。
- ・ 研究の種類(調査研究、文献研究等)によって、評価対象となる項目、および文字数等の基準が異なる。指導教員と十分に相談して執筆すること。

評価項目	優	良	可	不可
題目	論文内容を簡潔明瞭に示している。	論文内容を適切に示している。	論文内容を概ね適切に示している。	論文内容と合致しない、過度に一般的であること等により、論文内容を適切に示していない。
要旨	論文の全体像について簡潔明瞭に示している。	論文内容を適切に示している。	論文内容を概ね適切に示している。	論文の内容が伝わらない。要旨が長すぎる、または短すぎる。
序論・背景	先行研究を適宜引用しながら、広い視野で背景を捉えている。用語や概念について、分かりやすく説明している。	先行研究について調べ、主要なものについて分かりやすく説明している。用語や概念について、適切に説明している。	目的に繋がる先行研究について、ある程度調べて説明している。用語や概念について、概ね適切に説明している。	先行研究の調査が全く不十分である。主な用語や概念の説明ができていない。
序論・目的	背景をふまえて、解決すべき課題を明確に示している。	背景をふまえて、解決すべき課題を示している。	背景に関連した課題を設定している。	研究目的が明確でない、または不適切である。
方法	目的を達成するための方法について、追試が可能なように丁寧に記載している。	概ね研究方法が伝わるように記載している。	方法の記載に部分的な不足がある。	方法が目的に合致しない。または方法について十分に記載していない。
結果	研究結果について分かり易く記載している。	研究結果を概ね適切に記載している。	図表や統計的分析結果の表現等に一部問題がある。	基本的な分析結果を示していない等、研究結果を適切に記載していない。
考察	研究目的に合致した、多面的かつ説得力のある考察をおこなっている。	研究目的に合致した、論理的な考察をおこなっている。	改善の余地はあるが、ある程度研究目的に合致した考察をおこなっている。	論理的な考察となっていない。重要な観点からの考察が欠けている。
引用文献	当該研究領域の先行研究について網羅的に検討し、多くの文献を引用している。	研究目的に関わる先行研究を広くまとめている。	引用文献数は多くないが、研究目的に合致した文献を引用している。	引用文献が少ない。本文中に引用した文献と文献リストに齟齬がある。表記方法が一貫した書式(日本心理学会の書式*等)に従っていない。
形式・表現	段落構成が適切になされ、論理的で読みやすい文章である。	論理構成に難点は見られるが、概ね読み易い文章である。誤字脱字がほとんど無い。	読みにくい部分があるが、概ね論旨が伝わる文章である。誤字脱字は少数である。	論文の文字数が少ない。全体的な論旨が一貫していない。誤字脱字が多い。本文にページ番号が無い。
研究倫理	研究倫理上の配慮を適切におこなっている。	研究倫理上の配慮を概ね適切におこなっている。	研究倫理上の配慮をある程度おこなっている。	研究倫理上の大きな問題がある。明確な剽窃がみられる。

※ <https://psych.or.jp/manual/>